

用語集

あ

RCサーボ（あーるしーさーぼ）

ラジオコントロール機器を構成するものの一つ。位置決めコントローラが内蔵されたアクチュエータ。受信機からの信号を受け動作する。

ラジオコントロール機器

アドバイザー（あどばいざー）

防災、救助などに何らかの形で関わる人で、レスキューロボットコンテストへの助言を期待して実行委員会から依頼される。

アニュアルプライズ（あにゅあるぷらいず）

表彰の一部門。毎回必ず設けられる賞の総称。アニュアルプライズとして設けられる賞はレスキュー工学大賞、総合優勝、ベストプレゼンテーション賞、ベストテレオペレーション賞、ベストチームワーク賞、およびベストロボット賞がある。

イエローフラグ（いえろーふらぐ）

反則行為に対する警告。ロボット1機ごとあるいはヘリテレに対して与えられる。1競技中に同じロボットあるいはヘリテレがイエローフラグを2回受けると、レッドフラグとなる。

レッドフラグ

異議（いぎ）

- (1) 競技中の審判の判定に対する質問行為の回答に対して、異議申し立てをすることができる。ただし、異議に基づいた裁定によって審判の判定が覆された場合においても、競技結果に反映することはない。
- (2) ロボット検査の検査員の判定に対して、異議を申し立てることはできない。

裁定

一時帰還（いちじきかん）

レスキューロボットが自走してベースゲートを通過し、ロボットベースに戻ることに、また、自走できないロボットを他のロボットが助けロボットベースに戻すことを一時帰還と呼ぶ。

ロボットベースに戻る

一般審査員（いっばんしんさいん）

審査員のうち、レスキューあるいはロボットに関する専門知識を有する者以外から広く一般に募り、審査員とする者。審査員ポイントの採点を行う。

審査員、専門審査員

移動ロボット（いどうろぼっと）

レスキューロボットの分類の一つ。ロボットがロボット自身を移動させることができる機構を有する場合、当該ロボットを“移動ロボット”と呼ぶ。

基地ロボット、受動ロボット

引率者（いんそつしゃ）

学校、学校のクラブ等の組織で参加する場合、スタッフメンバーの管理者として引率者を登録することができる。引率者の登録はスタッフメンバーの登録時にあわせて行う。引率者はスタッフメンバーの人数には含まれないが、スタッフメンバーと同様、制限されるエリアに入ることができる。

学校の教職員以外が引率者を登録しようとする場合、事前に引率者の登録について実行委員会に申請し、許可を得なければならない。この場合、引率者として適しているかどうか実行委員会が判断する。許可を得てから登録することになるので十分余裕をもって申請する必要がある。

ウエイティングサークル（うえいていんぐさーくる）

実験フィールド内でヘルパーが待機する場所。リスタートに関する作業を行うなど特段の目的が無い場合、ヘルパーはウエイティングサークル内にいなければならない。

エキシビション（えきしびしょん）

競技会期間中に正規の競技ではないが、競技に準じた形で行われるレスキュー活動等。評価の対象にはならない。

応募（おうぼ）

参加チーム募集に応じて参加希望チームが応募する。参加応募時にはレスキューロボットコンテスト参加申込書の提出を以て応募とする。

規定 3.3. 応募

応募チーム（おうぼちーむ）

参加チーム募集に応募したチーム。応募チームは書類審査を受け、書類審査で採択されると採択チームと呼ばれる。

参加希望チーム、採択チーム、参加チーム

応募メンバー（おうぼめんばー）

参加チーム募集に応募時に登録されるメンバー。

メンバー、スタッフメンバー、チームメンバー

オペレータ（おぺれーた）

チームメンバーの担当の一つ。レスキューロボットを操縦する担当または担当者を言う。

か

開催告知（かいさいこくち）

各回のレスキューロボットコンテストにおける最初の活動。実行委員会は、参加チーム募集開始の1ヶ月以上前に開催告知を行わなければならない。

開催趣旨（かいさいしゅし）

フィロソフィーの概略を平易な言葉で簡単にまとめ、また、各回の競技の概略を解説したもの。各回ごとに改訂され、募集開始時に募集要項にて告知される。

フィロソフィー

確定ポイント（かくていぼいんと）

反則には該当しないが、悪質な行為が認められた場合、50点を限度として審判団が合計ポイントを減点することができる。合計ポイントに、審判団による減点を加味した後のポイントを確定ポイントと呼ぶ。

合計ポイント

隔壁（かくへき）

競技会場に設けられ、コントロールルームと実験フィールドとを隔てる壁。ベースゲートが設けられている。

可動ガレキエリア（かどうがれきえりあ）

救助ブロックのうち、固定されていないガレキおよびダミヤンが配置されるエリア。ブロックを田の字形に区切った1/4のエリアである。

壁（かべ）

ハイウェイ、被災区域の外側に設けられる。高さ 100mm。

ガレキ（がれき）

棒状ガレキ、板状ガレキ等のガレキが被災区域に配置される。配置される場所によって路上ガレキ、ブロック内ガレキに分けられる。単体のガレキを意味する場合と、集合体としてのガレキを意味する場合がある。

勧告（かんこく）

試走会において、実行委員会は各チームにおける競技会への準備状況を確認する。その結果、チームの準備状況が著しく遅れていると実行委員会が認める場合は、当該チームに対して勧告を行う。チームは勧告に従わなければならない。

機（き）

レスキューロボットを数える単位。1機とは書類審査の登録を基本とする。1機のロボットが分離する場合は、分離する最小単位を1台と呼ぶ。

台

基地ロボット（きちろぼと）

レスキューロボットの分類の一つ。ロボットがロボット自身を移動させることができる機構を装備しないが、何らかのエネルギー源を装備する場合、当該ロボットを“基地ロボット”と呼ぶ。単体でのリスタートは認められない。

移動ロボット、受動ロボット

規定適合性（きていてきごうせい）

書類審査において採択を受けたチームのチーム名称、提案したロボットのアイディア、応募メンバー等が規定に抵触している、あるいは抵触することが予想される場合規定適合性通知書にて、その旨通知を受ける。

キャプテン（きゃぷてん）

応募メンバー、スタッフメンバー、チームメンバーを通しての担当。必ず設けなければならない担当。キャプテンは応募メンバーにおいて登録したキャプテンから原則変更禁止である。キャプテンの変更を希望する場合、書面にて変更理由を明確にして実行委員会に申請しなければならない。実行委員会にて申請理由が相当であると認められた場合のみ、キャプテンを変更することができる。

主な役割は、チームの指揮を執り、チームを統括すること。担当者を意味する場合もある。

キャプテン会議（きゃぷてんかいぎ）

試走会および競技会期間中、審判団が必要に応じて開催する。全チームのキャプテンは出席しなければならない。試走会および競技会進行の手順確認、また、各チームが重大な違反を起こさないよう、注意事項の伝達を行う。キャプテン会議にてミッションごとのチームメンバー登録用紙が配布される。

救出（きゅうしゅつ）

レスキュー活動においてダミヤンをガレキの中から救い出すこと。

救出完了（きゅうしゅつかんりょう）

ダミヤンがいた救助ブロックから道路上へ完全に出た時点を救出完了とする。ダミヤンが空中にいる場合は床面への投射影で考える。

救助（きゅうじょ）

レスキュー

救助ブロック（きゅうじょぶろっく）

被災区域内に設置されるブロックの一つで、可動ガレキエリアが設けられているブロック。救助ブロック内は「私有地」と想定されている。可動ガレキエリア内にダミヤンが置かれるのでこのように呼ばれる。

競技（きょうぎ）

競技会場へ入ってから出てくるまでを一回の競技と見なす。競技には、プレゼンテーション、作戦会議、レスキュー活動、レスキュー活動報告の他、出勤準備のための電波機器の設定等も含まれる。

競技会（きょうぎかい）

レスキューロボットコンテストの中心的な催し。実験フィールドが設置された競技会場でレスキューロボットコンテストの競技を行う。3日間開催され、第1日目は関係者以外非公開、第2日目、第3日目は一般公開とする。

競技会参加チーム（きょうぎかいさんかちーむ）

参加チーム

競技会場（きょうぎかいじょう）

競技会を行う会場。競技会場は主に実験フィールド、隔壁、コントロールルームで構成される。

緊急停止スイッチ（きんきゅうていしすいっち）

レスキューロボットのエネルギー源を遮断するスイッチ。ロボット上部等、わかりやすくかつ操作しやすい位置に取り付けなければならない。特段の理由がない限り緊急停止スイッチは実行委員会が指定したものとする。

クリスタル（くりすたる）

ラジオコントロール機器が使用するバンドを決める発振子。クリスタルを交換することにより、ラジオコントロール機器が使用するバンドを変更する。クリスタルにはバンドの番号が表記されている。プロポ用と受信機用の一組を対で使用する。

現場（げんじょう）

レスキュー活動において救助を必要とするダミヤンが埋まっている場所。

現場到着（げんじょうとうちゃく）

レスキュー活動において、レスキューロボットが現場へ至ること。チームのいずれかのロボットが、ダミヤンのいる救助ブロックの可動ガレキエリアにあるガレキまたはダミヤンに触れる時点とする。

工具等（こうぐとう）

レスキューロボットの調整、部品交換等を行うための道具。一般的な工具であっても、レスキューロボットに取り付けて出動する場合は付属品となる。

合計ポイント（ごうけいばいんと）

一回の競技におけるフィジカルポイントおよびミッションポイントの合計を合計ポイントと呼ぶ。

固定ガレキエリア（こていがれきえりあ）

救助ブロック内のうち、固定されているガレキが配置されるエリア。ブロックを田の字形に区切った3 / 4のエリアである。

コンテスト（こんてすと）

開催告知から、書類選考、試走会、競技会等、レスキューロボットコンテスト実行委員会が主催するすべての催しの総称として用いる。

競技会

コントロールルーム（こんとろーるーむ）

競技会場に設けられ、チームメンバーが実験フィールドの情報収集やレスキューロボットの操縦などを行う部屋。隔壁で実験フィールドと区分けされており、震災被害を受けていない地域にあると想定されている。ヘリテレステージ、ロボットベース、各種カメラのモニターテレビ等が設置されている。ヘルパー以外のチームメンバーは競技中コントロールルームから出てはいけない。

さ

再検査（さいけんさ）

一度不合格になったレスキューロボットのロボット検査を再度受けること。レスキューロボット1機につき、一度だけ認められる。一度目の検査において検査員と協議の上、再検査で合格の見込みがあるものについてのみ再検査を申請することができる。

採択（さいたく）

応募チームの応募アイデアが書類審査に通過すること。実行委員会は書類審査の終了から2週間以内に、チームへ審査結果の通知を行わなければならない。

採択チーム（さいたくちーむ）

書類審査にて採択されたチーム。採択チームは中間審査を経て、試走会参加チーム、さらに試走会の結果を経て、競技会参加チームと呼ばれる。

参加希望チーム、応募チーム、参加チーム

裁定（さいてい）

異議申し立てに対して実行委員長が下す。裁定は最終判断であり、裁定に対して異議を申し立てることはできない。ただし、裁定によって審判の判定が覆された場合においても、競技結果に反映することはない。

作戦会議（さくせんかいぎ）

競技会でレスキュー活動を行う前に設けられる手順の一つ。ヘリテレが撮影するカメラ映像、ヘリテレの目視などによる観察をもとに、ガレキ内に取り残された被災者を模擬した人形であるダミヤンの救助作戦を立てる。

参加希望チーム（さんかきぼうちーむ）

競技会への参加を希望するチーム。参加希望チームは応募の完了をもって応募チームと呼

ばれる。

応募チーム、採択チーム、参加チーム

参加チーム（さんかちーむ）

試走会あるいは競技会への参加するチーム。試走会あるいは競技会どちらかへの参加を特に示す場合は試走会参加チーム、競技会参加チームと呼ぶ。採択チームのうち中間審査で不採択となったチームは試走会参加チームにはなれない。さらに、試走会後の勧告に応じないチームは、競技会参加チームになれない場合がある。

応募チーム、参加希望チーム、採択チーム

参加チーム募集（さんかちーむぼしゅう）

実行委員会は、各回のレスキューロボットコンテストにおいて競技会への参加を希望するチームを募集する。参加チームの募集開始において、各回のコンテストの開催趣旨が告知される。募集期間は2ヶ月以上とする。

試走会（しそうかい）

競技会に先行し、競技会とほぼ同一な競技会場でレスキューロボットを試運転する催し。原則として試走会参加が競技会出場の条件である。開催期間は1日間。

試走会参加チーム（しそうかいさんかちーむ）

参加チーム

実験フィールド（じっけんふいーど）

競技を行うために競技会場に設置され、レスキューロボットがダミヤンを救助する活動を行う場所。実験フィールドの中にはハイウェイ、被災区域が設置される。

実行委員（じっこういいん）

レスキューロボットコンテスト実行委員会の構成員。

実行委員会（じっこういいんかい）

レスキューロボットコンテスト実行委員会の略称。

実行委員長（じっこういいんちょう）

レスキューロボットコンテスト開催に関する最高責任者。レスキューロボットコンテスト実行委員会の長。審判の判定に対して異議を受けつけた場合裁定をする。またロボット検査の保留事項については全検査員および実行委員長が協議を行う。

質問行為（しつもんこうい）

- (1) 審判の判定に対してミッション終了後、チームのキャプテンは主審に対して質問することができる。
- (2) 審査員の自チームの評価についてその評価結果の理由に限り質問することができる。ただし、ミッション終了後キャプテンが主審に申し込む。
- (3) 規定に関する質問は電子メールでのみ受け付ける。
問い合わせ電子メールアドレス Q-rule@rescue-robot-contest.org

指導（しどう）

中間審査において、実行委員会が各チームの競技会へ向けての準備状況の審査を行い、準備不十分と判断した場合、実行委員会は各チームを指導することができる。チームが指導に従わない場合、チームは不採択となる場合がある。

主審（しゅしん）

競技中の全権を持ち、副審を指揮・統括する。

受信機（じゅしんき）

- (1) ラジオコントロール機器を構成するものの一つ。プロポからの操縦指令を受信し、RCサーボへ信号を出力する。バンドを変更するためには内蔵しているクリスタルを入れ替える。
- (2) 無線カメラからの信号を受信し、モニターテレビへ出力する。チャンネルを変更するためには、受信機本体を変更する。

出動（しゅつどう）

レスキューロボットがロボットベースからベースゲートを通り、救出現場へ向かうこと。

受動ロボット（じゅどうろぼと）

レスキューロボットの分類の一つ。ロボットがロボット自身を移動させることができる機構を装備せず、かつ、いずれのエネルギー源も装備しない場合、当該ロボットを“受動ロボット”と呼ぶ。単体でのリスタートは認められない。

移動ロボット、基地ロボット

条件付き合格（じょうけんつきごうかく）

ロボット検査において、規定に不適合である機能を競技中使用しないことを条件とした合格。

書類審査（しよるいしんさ）

運営の都合上、応募書類を基に実行委員会において書類審査にて第1次選考を行う。書類審査において採択されたチームのみ中間審査、試走会、そして競技会へ進むことができる。実行委員会は応募締め切りから1ヶ月以内に、書類審査を終了しなければならない。

規定 3.4. 書類審査

審査員（しんさいん）

同数程度の一般審査員および専門審査員で構成される。審査員はレスキューロボットコンテストのフィロソフィーおよび開催趣旨に則り審査員ポイントの採点を行う。

一般審査員、専門審査員、フィロソフィー、開催趣旨

審査員ポイント（しんさいんばいんと）

レスキュー活動を評価する指標の一つ。審査員がファイナルミッションについて評価する。一つのチームに対する一人あたりの審査員ポイントの満点は、一般審査委員より専門審査委員に多く配点する。主にレスキューロボットコンテストの主旨に合致している度合いを反映するためのポイント。

審判（しんぱん）

競技が規定に則り行われているかを判定する。主審および副審を設ける。

審判団（しんぱんだん）

主審および副審で構成される。

スタッフメンバー（すたっふめんばー）

試走会および競技会において、舞台裏手、控え室および競技会場等出入りを制限されるエリアに入ることができる。試走会および競技会の開催日1週間前に登録しなければならない。上限を12名とする。チームメンバーは引率者を除くスタッフメンバーから選抜される。

応募メンバー、チームメンバー

スピーカー（すぴーかー）

チームメンバーの担当の一つ。必ず設けなければならない担当。レスキューロボットおよび戦術のプレゼンテーションを行う。

セカンドミッション（せかんどみっしょん）

競技会で第二に行われるミッション。ファーストミッションの結果により参加するチー

ムが決定される。フィジカルポイントおよびミッションポイント等を基にした確定ポイントで評価する。

ファーストミッション、ファイナルミッション

センサ内蔵ダミー（せんさないぞうだみー）

レスキューダミー

センサモード（せんさもーど）

ダメージインデックスを算定するために通常用いられる方法。ダミヤンに内蔵されているセンサの値を基にする。

フラグモード

戦術（せんじゅつ）

想定した災害現場から救助を行うためにあらかじめ検討されている方法。

センターライン（せんたーらいん）

道路上に描かれる幅 20mm のライン。

全体ミーティング（ぜんたいみーていんぐ）

試走会では午前中に、競技会では各日に行われる。実行委員会、運営スタッフ、全参加チームのスタッフメンバーの顔合わせの場ともなる。全参加チームのスタッフメンバーが出席しなければならない。競技会および試走会運営上の注意、連絡事項等が実行委員会から伝達される。

専門審査員（せんもんしんさいん）

レスキューあるいはロボットに関連する専門知識を有する者から実行委員会が選任する審査員。審査員ポイントの採点を行うとともに、各賞の受賞者等の選定も行う。

審査員、一般審査員

総合ポイント（そうごうぽいんと）

一回の競技会で行われたファーストミッションおよびファイナルミッションの確定ポイント、さらにファイナルミッションの審査員ポイントを加算したポイント。

総合優勝（そうごうゆうしょう）

アニュアルプライズの一つ。最も高い総合ポイントを獲得したチームに与えられる。

た

台(だい)

1機のロボットが分離する場合は、分離する最小単位を1台と呼ぶ。

機(き)

タイムインデックス(たいむいんでっくす)

フィジカルポイントを算定するための指標の一つ。レスキュー活動の迅速さを反映する。

ダミヤン(だみやん)

レスキューロボットコンテストの競技で使用するレスキューダミーの呼称。震災でガレキに埋もれた被災者を模した小型の人形。詳細は規定別添4参照のこと。

レスキューダミー

ダメージインデックス(だめーじいんでっくす)

フィジカルポイントを算定するための指標の一つ。レスキューロボットがダミヤンをいかに優しく救助できるかを反映する。

フィジカルポイント

担当(たんとう)

チームメンバーが受け持つ仕事内容に対応した係り名。担当にはキャプテン、スピーカー、オペレータ、ヘリテレ、ヘルパー、電波管理がある。チームメンバーは、次の担当のうち電波管理担当者を除く担当を少なくとも一つ受け持たなければならない。

担当バンダナ(たんとうばんだな)

競技会においてはキャプテン、スピーカー、ヘリテレ、ヘルパーに識別用のバンダナを貸与する。各担当者は該当のバンダナを必ず着用しなければ各担当とは認められない。

チーム(ちーむ)

チームはフィロソフィーおよび開催趣旨に賛同するものであれば特にその資格を問わない。チームはレスキューロボットコンテストの進行に合わせ、参加希望チーム、応募チーム、採択チーム、参加チームと呼ばれ、その総称としてチームと呼ぶ場合がある。

参加希望チーム、応募チーム、採択チーム、参加チーム

チームカラー(ちーむからー)

各チームを識別する際に使用される色。書類審査終了後登録が必要になる。

チーム責任者（ちむせきにんしゃ）

応募チームの構成メンバーの状況に応じてチーム責任者を登録しなければならない場合がある。チーム責任者はレスキューロボットコンテストに関するメンバーの活動、貸与品等に関して責任を持つ者とする。チーム責任者は成人とする。チーム責任者は応募メンバーの人数に算入されない。

チームメンバー（ちむめんばー）

試走会および競技会において、競技会場に入りで競技を行うことのできるチームの構成員。単にメンバーと略する場合もある。引率者を除くスタッフメンバーから選抜される。競技会ではミッションごとにチームメンバーを登録しなければならない。上限を8名とする。

応募メンバー、スタッフメンバー

チャンネル（ちゃんねる）

- (1) ラジオコントロール機器の操縦自由度のことをいう。例えば、「1チャンネルでレスキューロボットのアームの角度を制御する。」「このラジオコントロール機器は6チャンネルの制御を行える。」など。
- (2) 無線カメラについては使用する周波数に対応する番号のことをいう。例えば、「10チャンネルと13チャンネルの無線カメラは同時に使用できる。」など。

中間審査（ちゅうかんしんさ）

書類審査で採択されたチームは、競技会に向け、ロボット製作、プレゼンテーションの準備、ロボット操縦の訓練等準備を進めなければならない。各チームの進捗状況を確認するために、実行委員会は中間審査を実施する。中間審査は、概ね書類審査と試走会の中間の時期に行われる。

規定 3.6. 中間審査

テストラン（てすとらん）

試走会および競技会第1日目に、競技会で使用する競技会場とほぼ同一な状況でレスキューロボットを操縦し、レスキュー活動の練習を行うことができる。テストランは時間を区切り、すべてのチームが行うことができる。ただし、時間帯の指定は実行委員会が行う。

デモ競技（でもきょうぎ）

試走会において、競技会と同じ手順で行う競技をデモ競技と言う。デモ競技を行うチームは、プレゼンテーションチェック、ロボットチェック、およびテストランの状況を総合して実行委員会が指定する。デモ競技への出場の指定を受けなかったチームは、デモ競技を見学することが望ましい。

電波管理（でんぱかんり）

チームメンバーの担当の一つ。必ず設けなければならない。キャプテン以外の担当を兼務しなければならない。電波管理を担当する者は各チーム1名とする。競技中の電波管理を円滑に行うために、自チームの使用する電波機器の管理を行う。

電波管理会議（でんぱかんりかいぎ）

試走会および競技会において設けられる。電波管理に関する注意事項を伝達する。

電波管理ブース（でんぱかんりぶース）

試走会および競技会では各チームが同一の会場でテストラン、競技等を行う。このときの電波の混信による事故を防ぐため、貸与機器のうち、無線カメラおよびラジオコントロール機器のクリスタルが実行委員会の電波管理者に管理されることになる。試走会および競技会期間中を通して競技会場に電波管理ブースが設けられ、一元的に管理される。

電波機器（でんぱきき）

無線カメラ、クリスタル、ラジオコントロール機器および電波を発生する機器一般を指す。

道路（どうろ）

被災区域内の各種ブロックを囲むように設けられている通路。不整地ブロックを除くブロック内は「私有地」と想定されているが、道路上は「公有地」として想定している。

な

特になし。

は

ハイウェイ（はいうえい）

実験フィールドおよびコントロールルームの中に設置される。コントロールルームに設置されているロボットベースと実験フィールド内の被災区域を結ぶ通路である。被災している区域と被災していない地域を結ぶ道路を想定している。

搬送（はんそう）

レスキュー活動において、救出されたダミヤンをロボットベースへ運ぶこと。

搬送完了（はんそうかんりょう）

レスキュー活動において、搬送されて来たダミヤンがベースゲートを完全に通過した時点をもって搬送完了とする。

バンド（ばんど）

ラジオコントロール機器が使用する周波数に対応する番号。周波数と番号の対応については、下記を参照のこと。

40.77MHz	77 バンド、	40.79MHz	79 バンド、
40.81MHz	81 バンド、	40.83MHz	83 バンド、
40.85MHz	85 バンド、		
72.13MHz	17 バンド、	72.15MHz	18 バンド、
72.17MHz	19 バンド、	72.19MHz	20 バンド、
72.21MHz	21 バンド、	72.79MHz	50 バンド、
72.81MHz	51 バンド、	72.83MHz	52 バンド、
72.85MHz	53 バンド、	72.13MHz	54 バンド

バンプレート（ばんぷれーと）

道路内の凹凸が設けられている部分。バンプレートにはセンターラインは引かれていない。形状等については別添2を参照。

被災区域（ひさいくいき）

道路および各種ブロックで構成される区域。ハイウェイ同様、外側は壁で囲まれている。また、被災区域内にガレキが配置される。

表彰（ひょうしょう）

優秀な成績を収めたチーム、レスキューロボット、メンバーを表彰する。表彰される賞はアニュアルプライズとメモリアルプライズに大別される。

ファーストミッション（ふぁーすとみっしょん）

競技会で最初に行われるミッション。すべての競技会参加チームが参加することができる。フィジカルポイントおよびミッションポイント等を基にした確定ポイントで評価する。

ファイナルミッション（ふぁいなるみっしょん）

競技会で最後に行われるミッション。ファーストミッションおよびセカンドミッションの結果により参加するチームが決定される。フィジカルポイント、ミッションポイント、および審査員ポイント等を基にして評価する。

フィジカルポイント（ふいじかるぽいんと）

レスキュー活動を評価する指標の一つ。ダメージインデックスとタイムインデックスよ

り算定され、ダミヤンのダメージを反映する。

フィロソフィー（ふいろそふいー）

レスキューロボットコンテストの最も基本となる考え方、主旨。コンテストのすべてはフィロソフィーに則り計画、開催される。

副実行委員長（ふくじっこういいんちょう）

実行委員長の補佐。

副審（ふくしん）

主審の指揮・統括下で、主審を補佐しながら競技の進行に務める。コントロールルーム担当副審とダミヤン担当副審を設ける。

不採択（ふさいたく）

- (1) 書類審査において応募チームの応募アイデアが選考を通過できないこと。実行委員会は書類審査の終了から2週間以内に、チームへ通知を行わなければならない。
- (2) 中間審査においてチームが指導を受けたにも関わらず、チームが指導に従わない場合、実行委員会はチームを不採択することができる。チームが不採択となった場合、チーム責任者あるいはキャプテンは貸与機器を貸与された状態に復帰し、速やかに返却しなければならない。

不整地ブロック（ふせいちぶろっく）

被災区域内に設置されるブロックの一つ。不整地ブロックは、整地されていない「公有地」と想定されている。

フラグモード（ふらぐモード）

ダメージインデックス算定法の一つ。通常はセンサモードで算定されるが、ダミヤンのシステムの不調時の緊急避難的な算定法。副審によるブルーフラグの提示回数を基準とする。

センサモード

ブラックフラグ（ぶらっくふらぐ）

反則行為に対する競技の没収。ブラックフラグが宣告されたチームは競技を継続することはできない。また、評価を受けることができない。

ブルーフラグ（ぶるーふらぐ）

フラグモードのダメージインデックスの基となる。ダミヤン担当副審が提示し、提示回

数によりフラグモードのダメージインデックスが算定される。

プレゼンテーション（ぶれぜんてーしょん）

競技会で行われる競技の一つ。スピーカーがチームのレスキューロボットの特徴、戦術を紹介する。

プレゼンテーションチェック（ぶれぜんてーしょんちえっく）

スピーカーが試走会にて、プレゼンテーションの練習、確認を行う場。

プレゼンテーションファイル（ぶれぜんてーしょんふぁいる）

プレゼンテーションで使用する Microsoft 社製ソフトウェア PowerPoint で製作されたファイル。試走会および競技会に先立って提出する必要がある。

ブロック（ぶろっく）

被災区域内に設置されている、道路で囲まれた正方形（1,200mm×1,200mm）の区域。ブロックは被災区域内に9カ所ある。

救助ブロック、模型ブロック、不整地ブロック

ブロック内ガレキ（ぶろっくないがれき）

救助ブロックの可動ガレキエリア内に配置されるガレキをブロック内ガレキと呼ぶ。単体のガレキを指す場合と集合体のガレキを指す場合がある。

プロポ（ぷろぽ）

ラジオコントロール機器を構成するものの一つ。操縦装置と送信機が一体となったもの。バンドを変更するためには内蔵しているクリスタルを入れ替える。貸与機器の一つ。

ベースゲート（べーすげーと）

ベースゲートは隔壁に設けられ、コントロールルームと実験フィールドを結んでいる。ハイウェイ上面からの高さ 450mm、幅 1,200mm。すべてのレスキューロボットはベースゲートを通り出動する。

ベストチームワーク賞（べすとちーむわーくしょう）

アニュアルプライズの一つ。担当する専門審査員または実行委員長が選定する。チームに与えられる。

ベストテレオペレーション賞（べすとてれおぺれーしょんしょう）

アニュアルプライズの一つ。担当する専門審査員または実行委員長が選定する。オペレーターに与えられる。

ベストプレゼンテーション賞（べすとぷれぜんてーしょんしょう）

アニュアルプライズの一つ。担当する専門審査員または実行委員長が選定する。スピーカーに与えられる。

ベストロボット賞（べすとろぼっとしょう）

アニュアルプライズの一つ。担当する専門審査員または実行委員長が選定する。ロボットに与えられる。

ヘリテレ（へりてれ）

チームメンバーの担当の一つ。レスキュー活動においてヘリコプターで上空から災害現場を撮影するテレビカメラを模擬し、高所より実験フィールドの撮影、観察を行う。担当者を意味する場合もある。

ヘリテレステージ（へりてれすてーじ）

ヘリテレが高所から実験フィールドの情報収集を行うために使用する台（高さ 600mm）。ヘリテレ以外のチームメンバーがヘリテレステージに登ってはならない。ヘリテレはヘリテレステージ上においてのみヘリテレ用カメラを操作することができる。

ヘルパー（へるぱー）

チームメンバーの担当の一つ。実験フィールド内のウエイティングサークルに待機し、リスタートの際にレスキューロボットを取り扱う。競技中他の担当者とコミュニケーションをとってはならない。担当者を意味する場合もある。リスタートに関する作業を行うなど特段の目的が無い場合、基本的にヘルパーは実験フィールドに設けられたウエイティングサークル内にいなければならない。

報告会（ほうこくかい）

試走会および競技会最後に行われる。実行委員会と各参加チームの討議の場である。試走会または競技会の各活動あるいは試走会および競技会後の対応に関する意見交換を行う。

ま

ミッション（みっしょん）

競技会ではファーストミッション、セカンドミッション、およびファイナルミッションを行う。競技会参加チームは各ミッションを通して合計 2 ~ 3 回の競技を行う。

ミッションポイント（みっしょんぽいんと）

レスキュー活動を評価する指標の一つ。救助作業の達成度合いを反映する。

ミニ競技（みにきょうぎ）

各チームにおける競技会への準備状況を確認するために簡単な競技を行う。実行委員会は、ミニ競技に対して評価を行い、各チームにその結果を通知する。

メモリアルプライズ（めもりあるぷらいず）

表彰の一部門。各回のコンテストの状況に応じて設けられる賞の総称。競技会終了後、レスキューロボットコンテスト全体を勘案し、実行委員長が選定する。

メンバー（めんばー）

チームの構成員のうち登録された者。メンバーはフィロソフィーおよび開催趣旨に賛同するものであれば特にその資格を問わない。チームのメンバーはレスキューロボットコンテストの進行に合わせ、応募メンバー、スタッフメンバー、チームメンバー、として3種類の登録をする必要がある。応募メンバー、スタッフメンバー、チームメンバー、の総称としてメンバーと呼ぶ場合がある。

チーム、応募メンバー、スタッフメンバー、チームメンバー

無線カメラ（むせんかめら）

レスキューロボットに搭載し、ロボットの操縦に必要となる映像を撮影するためのカメラ。映像は電波で送信される。貸与機器の一つ。

模型ブロック（もけいぶろっく）

被災区域内に設置されるブロックの一つで、ブロック内のすべてのガレキが固定されているのでこのように呼ばれる。模型ブロック内は「私有地」と想定されている。

モニターテレビ（もにたーてれび）

コントロールルーム内に設置された、映像をモニターする装置。モニターと省略する事がある。無線カメラのモニター、ヘリテレ用カメラのモニター、評価ポイントのモニターがある。

や

床面（ゆかめん）

競技会場を鉛直上方からみたときに見える面。たとえば実験フィールドでは、道路や各

種ブロックおよびガレキの上面となる。いわゆる建築物の床ではない。

ら

ラジオコントロール機器（らじおこんとろーるきき）

レスキューロボットを電波で操縦するための装置。プロポ、受信機、RCサーボ等で構成される。プロポおよび受信機に取り付ける一組のクリスタルを取り替えることにより、バンドの変更を行う。貸与機器の一つ。

リスタート（りすたーと）

レスキューロボットが一時帰還できない場合などにおいて、主審の許可を受け、ロボットをロボットベースへ持ち帰り、修理などを実施した後、再度出動することができる。この一連の作業をリスタートと呼ぶ。

リスタート要請スイッチ（りすたーとようせいすいっち）

レスキューロボットのリスタートを要請する際にキャプテンが操作するスイッチ。キャプテン以外は操作してはならない。

レスキュー（れすきゅー）

ダミヤンを救うために行う一連の活動。出動、現場到着、救出、搬送を総称して言う。

レスキュー活動（れすきゅーかつどう）

競技会で行われる中心的な競技。立案した作戦に基づき、ダミヤン救助作戦を遂行すること。

レスキュー活動の完了（れすきゅーかつどうのかんりょう）

すべてのダミヤンを搬送完了した時点を、レスキュー活動の完了とする。

レスキュー活動報告（れすきゅーかつどうほうこく）

競技会でレスキュー活動を行った後に設けられる手順の一つ。スピーカーあるいはキャプテンが、ロボットの行った活動を総括すること。

レスキュー工学大賞（れすきゅーこうがくたいしょう）

アニュアルプライズの一つ。実行委員長が選定する。コンテストすべてを通し総合的に判断される。レスキューロボットコンテストで最も意義深い賞。チームに与えられる。

レスキューダミー（れすきゅーだみー）

災害等で罹災した、あるいは負傷した人を模した人形。人の感覚を模擬した各種センサを内蔵し、センサ状況を遠隔モニターすることができる。「センサ内蔵ダミー」と呼ぶことがある。「ダミー人形」とは呼ばない。レスキューロボットコンテストで使用するレスキューダミーを特に「ダミヤン」と呼ぶ。

ダミヤン

レスキューロボット（れすきゅーろぼっと）

レスキューロボットコンテストに応募、出場するロボット。単にロボットと省略することがある。ベースゲートを通過し、実験フィールドで何らかの活動を行うロボット、機器等をすべてレスキューロボットと呼ぶ。

レスキューロボットコンテスト（れすきゅーろぼっとこんてすと）

震災被災地における人命救助を命題としたロボットコンテスト。レスキューロボットコンテスト実行委員会が主催する。開催告知から貸与機器の返却までのすべての活動を通して一回のコンテストと考える。レスコンと省略して呼ぶ場合がある。

レスキューロボットコンテスト実行委員会（れすきゅーろぼっとこんてすとじっこういいんかい）

レスキューロボットコンテストの主催者。実行委員会と省略して呼ぶ場合がある。実行委員会の長を実行委員長とする。実行委員長の補佐を副実行委員長とする。実行委員と表記した場合、実行委員会の構成員を意味する。

レスキューロボットの付属品（れすきゅーろぼっとのふぞくひん）

一回のレスキュー活動において、レスキューロボットに取り付ける部品等一式。レスキュー活動開始時において、ロボットベースに配置されていなければならない。レスキュー活動開始時にロボットベースに配置されていない部品は、付属品として認められない。

レスコン（れすこん）

レスキューロボットコンテストの略称。

レスコンアニュアルプライズ（れすこんあにゅあるぷらいず）

アニュアルプライズ

レスコンメモリアルプライズ（れすこんめもりあるぷらいず）

メモリアルプライズ

レッドフラグ（れっどふらぐ）

反則行為に対する退場。レスキューロボット1機ごとあるいはヘリテレに対して与えられる。

路上ガレキ（ろじょうがれき）

道路上あるいは不整地ブロックに配置されるガレキを路上ガレキという。単一のガレキを意味する場合と集合体のガレキを意味する場合がある。

ブロック内ガレキ

ロボット検査（ろぼっとけんさ）

競技会へ出場するレスキューロボットが、規定などに適合しているか否かを判断するために行う検査。競技に参加するすべてのロボットはロボット検査を受けなければならない。ロボット検査は1機ごとに行われる。

ロボットチェック（ろぼっとちえっく）

競技会で行うロボット検査の予行として試走会で行う。ロボットチェックはロボット検査の手順確認を行うのみで、ロボットが完成している場合においてもロボットについて合格、不合格の判断は行わない。

ロボット調整場（ろぼっとちょうせいじょう）

競技会第2日目、第3日目にラジオコントロール機器を使用してロボットの機能を点検する必要がある場合、ロボット調整場にて点検することができる。ロボット調整場の使用にあたってはあらかじめ各チームの使用時間の指定は行わない。各チームが必要に応じて使用できる。ロボット調整場では無線カメラを使用した調整を行うことはできない。ただし、ロボット調整場は一般観客に対して公開される。

ロボット番号（ろぼっとばんごう）

レスキューロボットを識別するために用いられる番号。競技に参加するすべてのロボットには1機ごとに1から順に割り当てなければならない。

ロボットベース（ろぼっとべーす）

レスキューロボットおよび付属品が出動する際に配置される区画（1,200mm × 1,200mm）。空間的に指す場合は、区画の表面から鉛直上方空間を言う。一時帰還およびリスタート時も同様にロボットベースから出動することとなる。ロボットベースに配置されているあるいは帰還しているロボットに限り、チームメンバーが触れることができる。

ロボットベースに戻る（ろぼっとべーすにもどる）

ロボットの接地面がロボットベース上にあること、かつ、ロボットが完全にベースゲートを通過していることをもってロボットベースに戻ったと言う。

わ

特になし。

以 上

なお、本規定の著作権はレスキューロボットコンテスト実行委員会が有する。断り無く転載することを禁止する。